

本日(11月9日)は100回生 飯村周有子さんが幼稚園にいらっしゃいました。小児科で栄養関連の研究グループに所属している飯村さん。出身園での遊びの様子やお弁当場面を見学するのが目的でしたが、子どもたちから直ぐに好かれ、一緒に遊びいろいろ感じる事があったようです。

幼稚園時代、歌がとても上手で、天真爛漫に元気いっぱい遊んでいた周有子ちゃん。下記のような感想を寄せてくださいました。

子供たちの元気いっばいな様子を見学し、10年以上前、楽しく登園していた日々を思い出しました。

学年の分け隔てないあそびでは上級生が下級生を自然と気遣い、下級生も上級生の振る舞いを見て新しい遊びを見つける姿がありました。大学生になった今でも幼稚園からの姉妹の関係は続いており、時々集まっては様々な場面で助けていただいています。宝物となった先輩後輩、友人同士の関係はここで育まれたのだと感じました。豊明幼稚園の醍醐味である「自由あそび」の様子からは一人一人が持つ世界観を表現することの楽しさを思い出しました。朝、登園して「今日は誰とどこでどんなことをしよう？」と毎日考えたことは、私たちが多彩な進路を見つけ出し、進もうと思った原点です。うまくいかないとき「どうすればうまくいくだろう？」とじっくり考えさせてくださったことは、卒園後さまざまな状況に置かれても前向きに取り組む力となっています。

先生方手作りのドレスや羽でのおしゃれ、着替えや身支度の教えのおかげで品格ある女性に育つことができ、感謝しております。

15年たった今、建物や遊び道具は在園中とは大きく変化していました。しかし先生方の暖かさや好奇心をくすぐる豊富な箱や紙などの道具、たくさんの本、子供同士の活発なあそびは何ひとつ変わっていませんでした。お友達と作った道具をお迎えに来た親に見せた瞬間やドレスを着た時のワクワクは今でも鮮明に覚えています。久しぶりの幼稚園はとても懐かしく、幸せな思い出に溢れた空間でした。

私は現在、卒園時に書いた「将来の夢」である「お医者さん」の夢を叶えるために勉強をしています。幼稚園3年間の中で見つけた夢とお互いを励まし合い、それぞれ夢を追い続ける友達は私が幼稚園から与えてもらった宝物です。

東京女子医科大学 医学部3年生
飯村 周有子